



「構想」のイメージパース

[特集]

# 「リニア・鉄道館」に続き 「レゴランド」が総合開発計画 「モノづくり文化交流拠点構想」さらに前進

## Contents

[特集]「リニア・鉄道館」に続き 「レゴランド」が総合開発計画 「モノづくり文化交流拠点構想」さらに前進	1~3
PERSON	4
まちづくり助成団体紹介	5
名古屋都市センター研究成果	6~7
まちづくり来ぶり	8
なごやのまち今昔	9
活動報告	10~11
私のお気に入りの場所	11
お知らせ	12



金城ふ頭のモノづくり文化交流拠点エリア



あおなみ線の金城ふ頭駅

## 金城ふ頭が、世界に開かれた交流と発信の拠点に

名古屋市が金城ふ頭で進める「モノづくり文化交流拠点構想」が、また一歩前進しようとしています。2011年3月にオープンし人気を集めている「リニア・鉄道館」に続き、ブロック玩具の世界的なテーマパーク「レゴランド」の開設準備が進められることになったのです。名古屋の産業技術のシンボルとも言える交通分野、子供の創造力を育くむレゴブロックの世界。どちらもモノづくり文化交流の拠点にふさわしい本格的な施設で、金城ふ頭は世界に開かれた情報発信と交流の拠点となりそうです。



## [特集] 「モノづくり文化交流拠点構想」 さらに前進



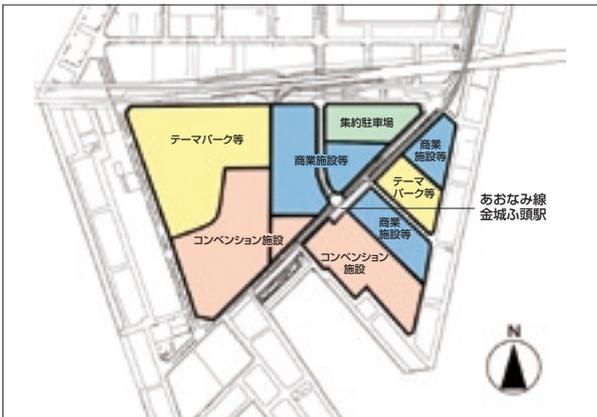
「リニア・鉄道館」の展示



カリフォルニアにある「レゴランド」



上空から見た「ポートメッセなごや」



「モノづくり文化交流拠点構想」のゾーニングイメージ

### 産業技術の継承と人材育成等をめざし 「モノづくり文化交流拠点構想」を策定

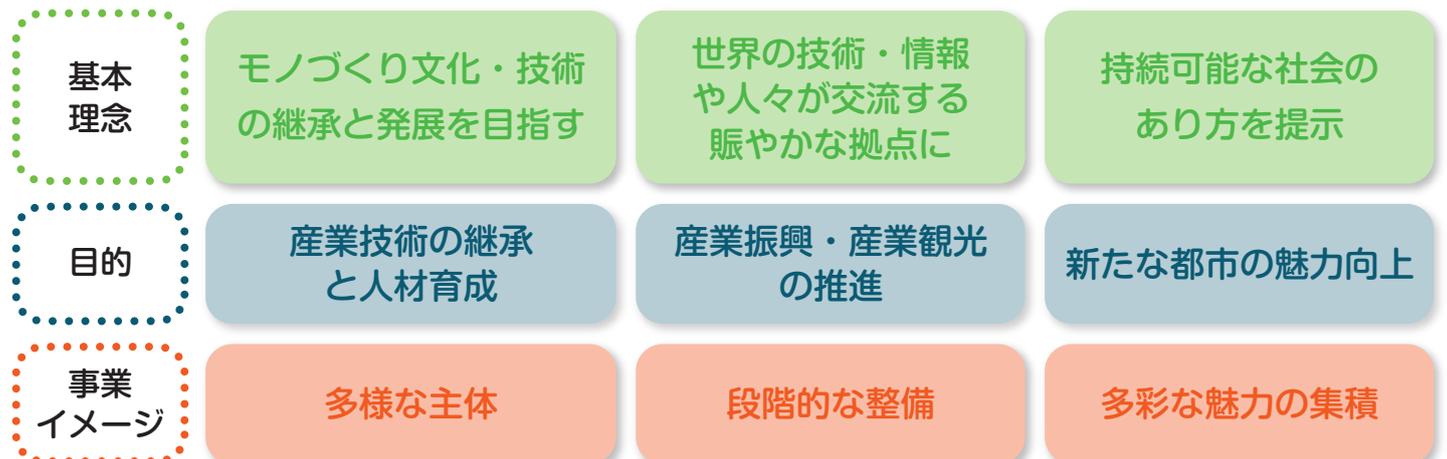
「モノづくり文化交流拠点構想」が策定されたのは2008年4月。その後、エリアの整備と並行し構想の推進調査、基本計画の策定等に向け準備が進められて来ました。

構想策定の背景には、多種多様なモノづくりの歴史を通し、名古屋圏が日本産業の屋台骨を支えてきたという事実があり、今後もそうあり続けるべきだという使命感があります。一方、経済のグローバル化や円高に伴うモノづくり拠点の海外移転、高齢者の退職、若者の現場離れ等によるモノづくり文化と技術の継承難という課題も出てきました。さらに「愛・地球博」「COPI0」の経験、リーマンショックに始まった世界同時不況の影響等を踏まえ、「産業技術の継承と人材育成」「新たな都市の魅力向上」などをめざす構想の検討が進められました。

こうして策定された「モノづくり文化交流拠点構想」の基本理念は次の3つです。

- (1)モノづくり文化・技術の継承と発展。
- (2)世界の技術・情報や人々が交流する賑やかな拠点の創出。
- (3)持続可能な社会のあり方を提示。

### 「モノづくり文化交流拠点構想」の基本的な考え方



## 構想実現の舞台は金城ふ頭

構想実現の舞台は名古屋港の金城ふ頭です。金城ふ頭は名古屋港の中央に位置し、周辺には鉄鋼、重化学、航空機などの産業技術や、自動車などの物流施設が集積しています。また「あおなみ線」で名古屋駅から金城ふ頭駅まで24分。ふ頭中央にある名港中央インターから伊勢湾岸自動車道を経由してさまざまな高速道路、自動車専用道路と連結しており、中部全域からアクセスできます。こうした好条件を背景に、金城ふ頭を訪れる人は年間300万人を超えています。

ここに国際交流、ふれあい交流、モノづくり文化交流などをテーマにした交流拠点を形成し、周辺のモノづくり現場、各種既存施設、周辺計画等との連携をめざします。左図「モノづくり文化交流拠点構想のゾーニングイメージ」にあるコンベンション施設としては、すでに名古屋市国際展示場「ポートメッセなごや」が設置され、さまざまなイベントに活用されています。テーマパークではJR東海が「リニア・鉄道館」を開業。高速鉄道技術の進歩を紹介する展示を中心に、モノづくり文化交流拠点の先導的役割を果たしています。

## レゴランドの開発で周辺の活性化にも期待

テーマパークを核とする複合施設として開設の計画を進めているのが「レゴランド」です。レゴランドは、主に子供とその家族を対象とするテーマパークで、レゴブロックを使ったミニチュアサイズの街や、子供の知育に配慮した乗り物やアトラクションなどが特徴です。

運営するのはイギリスの「マーリン・エンタテインメント・グループ」。現在、デンマークや英国など世界の6カ所で展開し、名古屋が7カ所目。アジアでは、この秋に開業する予定のマレーシアに続き2カ所目となります。金城ふ頭ではホテル、商業施設など



名古屋の都心と名古屋港を結ぶ「あおなみ線」

を併設した総合開発計画を進め、2015～2016年度の開業をめざしています。

レゴランドの提案に対して名古屋市は「モノづくり文化交流拠点構想」の考え方に一致するとともに、複合的な開発が周辺地域の活性化やあおなみ線の利用促進につながるとして前向きに評価。新たな大規模集客に伴い交通渋滞が発生し、金城ふ頭の物流機能を損なうなどの問題が生じないように調整を行いながら今後、民間事業者が環境影響評価の手続きに着手する予定です。

## 進化するミュージアムゾーン

「モノづくり文化交流拠点構想」は、行政機関だけでなく民間企業、NPOなど多様な主体の参加により長期的・段階的に施設を整備し、進化するミュージアムゾーンとなることをめざしています。構想が具体化するに従って、中部全域を視野に入れた都市間競争の決め手として、また世界のモノづくり情報と技術が交流する拠点として、わが国のモノづくり文化をリードしていくことになりそうです。

## モノづくり文化をアジアに向けて発信し アジアのパワーを吸収する交流拠点に

戦後日本の成長は、大都市を中心に発展した高度成長期からパイを地方に再分配する段階を経て、両者のバランスを重視する成熟期というサイクルをたどりました。しかし見せかけのパイに踊った1980年代バブル期のあとは、長い景気低迷の中にあります。今必要なのは新しいサイクルの発展ですが、その起爆地となり得るのは東京、名古屋、大阪の大都市です。特に名古屋はモノづくりという、見せかけではない確かなエンジンを持つ最も有望な大都市です。

中でも重要な拠点となるのが金城ふ頭です。ここは物流拠点というだけでなく「ポートメッセなごや」「リニア・鉄道館」があり、いま世界的なテーマパーク「レゴランド」の計画が進んでいます。ホテル、商業施設の構想もあり、集客機能も充実します。金城ふ頭からモノづくり文化の魅力のアジアに向けて発信していくことで、モノづくり名古屋のブランドがさらに高まり、アジアのパワーを吸収することができます。それが日本の新しい成長サイクルにつながる力強いエネルギーになります。

中京大学総合政策部 教授  
モノづくり文化交流拠点構想検討会議 座長  
おくの のびる  
奥野信宏さん

